

聖書日課 『からし種』 2021.1.3-1.10

<p>1月3日 (日)</p> <p>詩編 144編</p>	<p>「主をたたえよ、わたしの岩を」(1節)。詩編の人々は主なる神を「わたしの岩、わたしの砦、わたしの避けどころ、わたしの救い」と呼んだ。岩は、戦いの際に砦となって自分たちを守り、エルサレム神殿の土台の岩のように揺ぎなく一番下で支えてくれる存在だったから。新しい年、一人ひとりの「わたしの岩」として伴ってくださる方に、共に賛美をささげていこう。</p>
<p>4日 (月)</p> <p>詩編 145編</p>	<p>「主は倒れようとする人をひとりひとり支え／うずくまっている人を起こしてくださいます」(14節)。主の恵みと憐れみは造られたすべてのものの上に注がれている(9節)。新型コロナウイルスに揺さぶられ不安に覆われている世界において、倒れ、うずくまっている一人ひとりに主の助けが届くように。そして主への感謝と賛美にあふれる日が一日も早く来るように。</p>
<p>5日 (火)</p> <p>詩編 146編</p>	<p>「君侯に依り頼んではならない。人間には救う力はない。霊が人間を去れば／人間は自分の属する土に帰り／その日、彼の思いも滅びる」(3-4節)。人間は土の塵(ちり)で造られ、主がその鼻に息を吹き入れて生きる者とされている(創世記2章)。今日、主の慈しみによって生かされている命を大切に受け取る信仰をもって、主の働きを担う者とされて。</p>
<p>6日 (水)</p> <p>詩編 147編</p>	<p>「主は馬の勇ましさを喜ばれるのでもなく／人の足の速さを望まれるのでもない。主が望まれるのは主を畏れる人／主の慈しみを待ち望む人」(10-11節)。人は馬の勇ましさを喜び、互いに足の速さを競い合う。戦いに「役に立つ」能力を求め、ほめたたえる。しかし主が望まれるのは、主を畏れ、主を待ち望む信仰。朝一日の始まりに、主に向かう心を整えて。</p>

聖書日課 『からし種』 2021.1.3-1.10

<p>7日 (木)</p> <p>詩編 148編</p>	<p>「主の御名を賛美せよ。主は命じられ、すべてのものは創造された。主はそれらを世々限りなく立て／越ええない掟を与えられた」(5-6節)。すべてのものは、主を賛美する存在、喜びの存在として創造された。その私たちに与えられている「越ええない掟」。それは他の被造物をけなし、尊厳を奪うこと。今日の一日が、共に主の御名を賛美する日となるように。</p>
<p>8日 (金)</p> <p>詩編 149編</p>	<p>「ハレルヤ。新しい歌を主に向かって歌え。主の慈しみに生きる人の集いで賛美の歌をうたえ」(1節)。主はわたしを泥沼から引き上げ、岩の上に立たせて「新しい歌」を与えてくださる方(詩編40編)。わたしが思い描くことのできない驚くべき御業を成し遂げて「新しい歌」を歌わせてくださる方(詩編98編)。教会の礼拝がそのような「新しい歌」であふれるように。</p>
<p>9日 (土)</p> <p>詩編 150編</p>	<p>「ハレルヤ。聖所で／神を賛美せよ」(1節)、「太鼓に合わせて踊りながら…弦をかき鳴らし笛を吹いて…シンバルを鳴らし…響かせて／神を賛美せよ」(4-5節)。あらゆる楽器を用いて、踊りで神を賛美したい。コロナが終息し、新しい礼拝堂でみんなで全身で神を賛美し礼拝できる日が来ることを祈り願う。その賛美が世界の人々と響き合う礼拝となるように。</p>
<p>10日 (日)</p> <p>箴言 1章</p>	<p>「主を畏れることは知恵の初め」(7節)。8節以降、「わが子よ」で始まる主の知恵は、「聞け(シェマー)、わが子よ」という言葉が用いられている。申命記6章4節の「聞け(シェマー)、イスラエルよ。我らの神、主は唯一の主である」から始まる主の言葉に通じる言葉。ソロモンの箴言は、一ヶ月を通して主がわたしたちに直接語りかけてくれる知恵なのだろう。</p>